

オスプレイ事故報告書 構造的欠陥は明らか

昨年12月に沖縄で墜落したオスプレイの米軍の事故報告書が公表されました。米軍は「操縦士のミス」だと言いますが、報告書からは、オスプレイの構造的欠陥が浮かび上がっています。

空中給油に4〜5回も失敗重なる

報告書によれば、事故機は昨年12月13日午後6時17分に沖縄県の普天間基地を離陸したのち、午後8時以降にMC130特殊作戦機と合流して空中給油訓練を開始しました。

しかし、オスプレイはMC130の給油口と給油管との接続に何度も失敗。報告書では「4〜5回接続を試みた」後もさらに繰り返したとしています。

港沖約15kmの地点で最後の接続を試みた際、オスプレイのパイロットがMC130との適切な距離を保つことができず、右側のプロペラに給油口が接触。これにより機体が大きく振動し、左右のバランスが保てなくなり、午後9時29分、沖縄県名護市安部の浅瀬に墜落しました。

報告書では、今回と同様の事故が2015年にもアメリカ本土で起きていることが記載されています。

給油管がずればプロペラと接触

そもそも空中給油は、時速数百kmもの高速で飛行する米軍機同士が、高度を合わせてホースをつなぎ合わせるもので、高い操縦技術が求められます。

問題は、給油管の付いている場所です。オスプレイでは機体の先端で、2つのプロペラの間に付いているため、少しでも給油管が左右にずれれば、ホースがプロペラと接触してしまふことになります。

ただでさえ難しい技術が必要なのに、少しでもずれたら

半年余りで8回も事故が発生

大事故につながってしまうような機体の構造自体に大きな問題があるのは明らかです。

千葉県内防衛施設関係予算 自衛隊をより実践的機動的に改変めざす

9月15日、防衛省から概算要求の千葉県関係部分について説明を受けました。

陸上自衛隊第一空挺団（パラシュート降下部隊）の古くなったパラシュートを新しいものと取り替えるための経費として9・4億円を計上。更新にあたって、米軍と同様の最新仕様のもに変わ

オスプレイは昨年12月の沖縄での事故以降、判明しているだけで8回も事故を起こし、そのうち2回は人命が失われています。

それでも今回の事故にたいして沖縄の米軍トップのニコルソン四軍調整官は一切謝罪せず、「事故が起きたことは非常に残念だが、もし乗組員の迅速な対応、そして沖縄や米軍関係者の協力がなければ、状況は悪化していたかもしれない」との声明を発表して事故を正当化しています。

危険なオスプレイは、千葉県の空、日本の空を飛ばさせるわけにはいきません。

木更津駐屯地の第一ヘリコプター団分として1・5億円を計上。89式小銃（1989年型）の取得費で「取得数は言えない。60式の古いものが残っているので新しいものにしていく。第一ヘリコプター団が、今年度末、新設される『陸上総隊』の指揮下に入るため」とのこと。

「陸上総隊」は、陸上自衛隊の統一司令部となるもので、全国5つの方面隊への指揮権を持つようになります。来年3月をめどに約180人規模で発足。司令部は朝霞駐屯地（東京・練馬）に置かれます。陸上総隊創設に伴って、これまでの「中央即応集団」は廃止され、指揮下にあった第一空挺団や第一ヘリコプター団、特殊作戦群などはすべて陸上総隊の指揮下となります。

海上自衛隊下総基地関係では36億円が計上されています。下総基地には対潜哨戒機P3Cが配備されていますが、今後P1と呼ばれる最新の哨戒機に入れ替えていくための経費です。

陸上自衛隊が購入を進めているオスプレイ（合計17機）はすでに13機が発注済みで、来年度概算要求では最後の4機分として921億円（機体本体以外も含む）が計上されています。

千葉県の自衛隊は、最前線での役割を担う部隊が中心で、予算上、より実践的、機動的なものに改変されていくことがうかがえます。



防衛省の説明を受ける齊藤和子衆院議員（中央）と丸山慎一県議（左）。
9月15日・衆院議員会館内